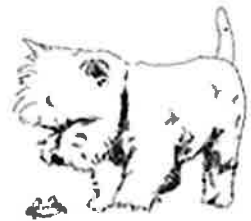


『金曜日の朝、どうかシッポを振らないでくれ』 ～保健所の現場から～

私は、金曜日の朝が辛いです。
数日間なれど、飼い主からの連絡を待ちながら、飼い主の代わりに世話をしています。
飼い主を捜したり、餌を与え、便の後片付けをし、日光浴をさせ、頭をなでてやり、限られた時間で出来るだけの情を注いでいます。
情を注げば可愛く思えてきます。
金曜日は殺処分(一部譲渡)するために大分へ犬を運びます。
情をかけた子(犬)を送り出すときの、我々職員的心境を考えてみて下さい。
金曜日の朝、私の心は、こうです。
シッポを振りながら私を見ないでくれ！
「餌の時間かな？」と疑いのない目で見ないでくれ！
遊ぼうってすり寄らないでくれ！
子(犬)は、殺処分したくない。
憎しみで牙をむいて吠えてくれ。
.....その方が、私の心は痛まずにすむから。
今から殺処分されるのに.....親しそうな目で見ないでくれ！
最後の最後まで人間を信じている.....「俺たちは、お前達を殺処分するんだぞ！」
.....シッポを振らないでくれ。
私達職員は、胸が締め付けられます。
その時が金曜日です。
「憎しみで吠えられた方が気分が楽になる」
この心境、分かりますか？
保健所に殺処分をゆだねる前に、愛犬との楽しかった時期を思い出して下さい。
愛犬は、最後の最後まであなたを信じているはずです。
愛犬が粗相したとしても、多くの場合、飼い主がしつけを怠ったケースが多く、責任を愛犬になすりつけないで下さい。
犬についての正しい勉強を怠った自分(飼い主)を見つめ直して下さい。



元 大分県北部保健所 衛生課 生活衛生環境班
イラスト：(故)工藤 毅 文：渡辺 徹

大分県北部ボランティアのホームビーナッツさんと、
工藤さん、渡辺さんが、いのちの授業を立ち上げ、その
中で使っているものです。
イラストを書かれた工藤さんは、難病を患いながら、生
命をかけていのちの授業を立ち上げたそうです。

文章、イラストの著作権は作者に既存します。
配布・拡散は自由ですが、改変はご遠慮ください。



2つの命、同じです。